

インターンシップ 2023 年 12 月度イタセンネット 活動報告

日時：12 月 2 日（土）10:00～12:00（城北ワンド現地直行）

参加：インターン生 加藤雅基（近畿大学農学部 FeeLink 所属 3 回生）

※案内は岡本晋弥（イタセンネット理事、協会理事）

天候：晴れ

活動：城北ワンドのイタセンネットは、4～11 月に月 2 回定例保全活動があるが、この日は定例とは違った活動で、いつも行っている地引網による魚の捕獲調査ではなく、緊急性を要する特定外来生物の駆除。主にナガエツルノゲイトウと、オオバナミズキンバイといった植物が対象で、陸域と水域の境界になる水際（エコトーン）によく生えており、水辺環境の悪化を防止するため、枯れきる前に除去してしまおうというものでした。



岸際に流れ着いたごみと共に外来植物の駆除を行う加藤さん



レーキで外来植物の駆除を行う加藤さん（写真中央）



活動後に記念撮影時の加藤さん（写真右端）

加藤さんの感想：今回の活動では、外来種の水草の駆除を行いました。淀川の岸辺に繁茂している外来種のオオバナミズキンバイとナガエツルノゲイトウをレーキや網などを使って取り除き、袋に入れる、という流れで作業して行きました。私はイタセンネットの活動に初めて参加しましたが、このような外来種駆除の活動は初めてだったので、非常に勉強になりました。同時に、身近な環境である淀川に外来植物が繁茂している状況に驚きました。今回の経験を活かし、身近な自然に目を向け、そこにいる植物や生物を観察し、生態系にどのような問題が起きているかを自分から情報発信していきたいと考えます。

岡本より：胴長をお持ちではないとのこと、長靴での参加でしたが、トラブル無く、終了できました。寒かったものの、手袋の貸し出しがあったので助かりました。90L ゴミ袋 40 袋もの回収がありましたが、淀川の面積の何%をカバーできたのかと考えると、もっと効果的な方法はないものかといつも考えています。加藤さんも活動に参加することで外来植物の多さの現状を知ってもらえたと共に、来年以降も個人的に参加してくれそうであることと、また、周囲への波及効果にも期待しています。

報告：岡本 晋弥